

## A-1 学校研究

### 1 本校の実態

本校では「生きる力を磨くためには」という主題の下、人間関係形成能力の育成と学力向上を目指した授業研究を推進してきた。しかし、「全国学力・学習状況調査」や「基礎学力調査」の結果から、基礎的・基本的な知識については概ね理解しているものの、知識・技能等を活用した思考力や判断力や表現力等が充分ではないことが明らかになった。そこで今年度は学力向上を目指すために、副題を「活用力を高める授業の研究」とし、基礎的・基本的な知識・技能の習得型の学習と、実社会・実生活に生きる力の育成を期した探究型の学習とを効果的に繋ぐために、活用型の授業を展開し、授業の中で活用能力を育てる必要があると考えた。

### 2 研究主題の設定

「生きる力」を磨くためには  
～学力向上を目指すために、活用力を高める授業の工夫～

### 3 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態から

本校は、旧松任市街地の北部に位置し、都市化による価値観及び家庭環境の多様により、不登校や学力低下など様々な問題が生じていた。その原因については、人間関係構築のゆきづまりや社会性の低下が考えられ、授業を通じた人間関係形成能力の育成に重点を置きながら、望ましい学習集団による学力向上を目指した授業研究を推進してきた。最近では、授業規律を始めとして学校生活全般での規範意識も高まり、生徒自身の手で学校をより良いものへと創り変えていきたいという意欲も高まってきた。

しかし学習面においてはまだまだ充分ではなく、教師・生徒及び保護者で行われている学校評価のアンケートでも、学びの土台がしっかりしていないことが挙げられている。本校が数年来、研究主題に掲げてきた「生きる力」を磨くためには、生徒自身が学んだと実感できるような授業への転換が必要であると思われた。そこで、既習の事項を生かして考え、自分の考えを発表する場を設け、生徒同士が互いの意見を交わすことによって、生徒自身が自分を見つめ直し、学習に対して主体的な態度で臨み、学びを実感することで、学力向上に繋がるのではないかと考えた。

#### (2) 本校教育目標の視点から

本校では「ちょっとした努力ができる生徒の育成」という教育目標の下、人間関係形成能力を育成することを中心とした研究が行われてきた。今年度は、生徒一人一人がより主体的な態度で学力向上を目指し、落ち着いた授業の中で「ちょっとした努力」を行うことが、思考力や判断力や表現力の向上に繋がり、活用能力が高まるものと考えた。

#### (3) めざす生徒像から

本校のめざす生徒像は「心豊かな生徒」、「よく学び深く考える生徒」、「主体的に活動できる生徒」の三点である。「心豊かな生徒」とは、生徒が授業の中で、互いに認め合い、高め合うことで落ち着いて学ぶことができる生徒である。「よく学び深く考える生徒」とは、意欲的な授業態度で学びを掘り下げることができる生徒である。「主体的に活動できる生徒」とは、自己の個性や能力をしっかりと認識し、長所伸ばしながらも、自分自身の足りない部分を補うことができる生徒である。生徒が自らが主体的に活動するためにも、授業の中で活用力を高めるよう指導をしながら、学力向上を図っていききたい。

#### (4) めざす学校像から

本校のめざす学校像は「ちょっとした努力が見える学校」、「人にやさしい生き方を学ぶ学校」、「明るく元気でダイナミズムのある学校」の三点である。「ちょっとした努力が見える学校」は、自分たちの良いところを伸ばそうとする長所伸長の様子が伺えることである。「人にやさしい生き方を学ぶ学校」とは、生徒同士の間関係形成能力により、仲間を受容できる豊かな「心」を育むことが、自らを律し、自らを表出し、高めようとする心を育むことである。「明るく元気でダイナミズムのある学校」とは、周りとの信頼関係が深まることによって、その元気さ且つダイナミックさを表出し、より活動的な学校を目指すことである。生徒たちが、明朗で活発な集団を形成していくことで、学校が主体的に活動できる場となるよう指導していきたい。

### 4 研究の仮説

生徒自身が学んだと実感できるような主体的な学習を行うためには、知識・技能を活用した学習を繰り返すことにより、思考力・判断力・表現力が培われると思われる。そのような学習を積み重ねることにより、確かな学力が身につく、質の高い「生きる力」の育成に繋がると考えられる。

### 5 研究組織と研究の進め方

研究推進委員会は、年度初めに校長が示した「教育目標」及び「校訓」「めざす生徒像」「めざす学校像」を具現化するために、研究主題と研究仮説を設定し、研究の方向性を検討する。またその結果を全体研究会で深め、教科部会からの研究の成果をとりまとめることも必要である。

研究推進委員会が有効に機能するために、主題に基づく授業中心の取り組みは、学習進路指導部が中心となり、教科主任会を通して各教科で実践を行う。また授業づくりや人間関係形成能力を高めるために、教務部、生徒指導部、特別活動指導部との連携も行う。実践を行った上で、成果や反省点を各部会や全体研究会からフィードバックし、研究推進委員会で検討する。その上で、研究の計画の方向性に修正を加え、再び教科部会で実践を行う。この実践の成果と課題を全体研究会を通して本年度の研究のまとめとし、反省点を来年度の研究に反映させる。

### 6 今年度の取組

#### (1) 全国学力調査及び基礎学力調査

##### ①今年度の本校の分析

- 国語：A問題もB問題も「書くこと」及び「言語事項」の通過率が低い
- 数学：B問題の「数と式」の通過率が低く、一次関数の範囲が弱い
- 社会：地理分野の「資料活用」の通過率が低く、地図や資料の活用の範囲が弱い
- 理科：においては第1分野では化学変化、第2分野では地震の範囲が経年的に弱い
- 英語：「聞くこと」の領域の通過率が低く、長文の聴き取りの範囲が特に弱い

##### ②分析を受けて本校の取組

- 本校の経年的な弱点の分析と学力向上プランの見直し
  - ・過去の学力調査等の分析と今年の分析との比較による、経年的な弱点の分析
  - ・1, 2年生の学力診断から実態把握と分析
  - ・経年的な弱点や実態を受けて学力向上プランの見直し
  - ・5教科の9月～3月の指導改善スケジュールの新たな作成・実践

##### ③今後の本校の取組

- 指導改善スケジュールの実践・検証及び改善
  - ・過去の学力調査を現1, 2年生への実施し、指導改善スケジュールの検証
  - ・指導改善スケジュールの検証による学力向上プランの見直し

## (2) 全国及び県の学習状況調査結果から

### ①今年度の本校の分析（左の項目は県及び国と比較して低い項目、右は分析）

#### ○全国学習状況調査より

- ・自分にはよいところがあると思いますか → 自己肯定感が不足している
- ・家で学校の授業の予習をしていますか } → 家庭学習時間が不足している
- ・家で学校の授業の復習をしていますか }
- ・学校で好きな授業がありますか → 授業に対して後向きな生徒が多い
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか → いじめについての認識が不足している

#### ○県学習状況調査より

- ・学校が好きだ → 学校での充足感が不足している
- ・◇◇の時間が好きだ → 授業が面白くない生徒が多い

### ②分析を受けて本校の取組

#### ○研究部会から

- ・授業が面白くない生徒が多い } → 授業改善アンケートの実施
- ・学校での充足感が不足している } → 1、2年生への学習状況調査の実施

#### ○進路・学習部会から

- ・家庭学習時間が不足している → 各学年学習部会から家庭学習の提案
- ・授業に対して後向きな生徒が多い → 小コンテストの実施

#### ○生徒指導部会及び道徳部会から

- ・自己肯定感が不足している } → 生徒指導部や道徳担当と連携して、集会や道徳等で生徒の実体験に迫りたい
- ・いじめについての認識が不足している }

### ③今後の本校の取組

#### ○各種アンケートの実施

- ・年内に1、2年生への学習状況調査を実施し、分析と検証
- ・年末に授業改善アンケートの実施による分析と検証

## (3) 基礎基本の定着

### ①掲示計画の見直し

- ・学校全体及び学年毎の教室掲示の見直し
- ・学びの足跡がわかるような掲示
- ・特別教室については、教科の特性を活かした掲示
- ・活用力を高めるために、既習の事項をまとめた掲示

### ②指導案の検討

- ・生徒観 → 生徒の状況をレディネステスト等で把握
- ・指導観 → 単元を通してつきたい力を記入
- ・単元計画 → 学習活動、支援、評価がわかる形で
- ・活用力 → 授業内に既習の事項をどこで使ったのかわかるように
- ・作業課題 → 探究課題

## (4) 活用力の向上

### ①研究会の実施

- ・全体研究会の開催 指導主事、大学教授による活用力の研究の紹介

### ②研究授業の開催

- ・教科での活用力に対する考え方の統一
- ・子どもの考えを掴み、生徒主体の課題解決型の授業の研究
- ・生徒自身が知識・技能を活用し、学んでいるという実感を感じ取れる授業の研究
- ・生徒にとって思考を深める課題、生徒にとって必然性のある発問の研究

## 平成20年度 北星中学校 研究全体構想図

### ～研究主題～

「生きる力」を磨くためには  
～学力向上を目指すために、活用力を高める授業の工夫～

### ～活用力を高める授業の工夫～

- ① 考える場の設定  
○ 既習の事項を活かしながら、考えを深める場
- ② 学び合う場の設定  
○ 互いに意見を交わしながら、見つめ直す場
- ③ 発表する場の設定  
○ 自己を表現しながら、相手に自分の考えを伝える場

○ 各種評価の分析と改善  
・ 学校評価による改善  
・ 授業評価による授業改善

○ 各種学力調査の分析と改善  
・ 指導改善スケジュールの見直し  
・ 教科評価年間計画の見直し

### ～学びの土台作り～

#### 基礎基本

- ・ 評価規準の見直し
- ・ C規準への支援

#### 授業規律

- ・ 授業前の規律
- ・ 授業中の規律

#### 掲示環境

- ・ 学校掲示計画
- ・ 学年掲示計画

#### 家庭学習

- ・ 家庭学習計画
- ・ テスト前計画

### ～昨年までの研究の積み重ね～

- ちょっとした努力のできる生徒の育成
- 人間関係形成能力を高めることを通しての学力向上